

## 『現代社会資本論』刊行される

9月末、写真の森裕之・諸富徹・川勝健志編『現代社会資本論』有斐閣が刊行された。

主な目次一序章 社会資本論の現代的課題

第I部 現代社会資本論の視点

第1章社会資本の歴史の変遷と現在 第2章社会資本と都市・農村 第3章社会資本と官民役割分担

第II部 転換期の社会資本

第4章居住福祉と社会資本 第5章都市におけるグリーンインフラ 第6章地域エネルギーと社会資本 第7章交通社会資本とまちづくり 第8章災害と社会資本 第9章文化・観光と社会資本

第III部 社会資本のガバナンス

第10章社会資本と公共サービス・参加型予算 第11章地域金融と社会資本 第12章現代社会資本と税財政改革

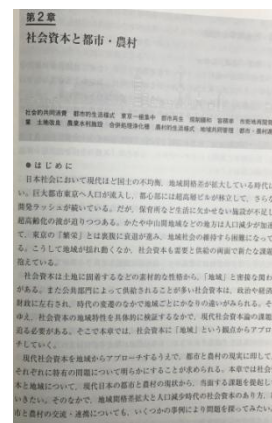
終章グローバル・ローカル時代の社会資本論へ向けて

序章の宮本憲一先生をはじめ、14人の執筆者の多くは「国家経済研究会」のメンバーである。私は名古屋時代に『公共事業と財政』を刊行した時に、この研究会で報告させてもらったことがある。大阪に移ってから社会資本について報告を依頼され、それが縁であとから執筆メンバーに加わった。

担当したのは第2章のはじめに（写真は冒頭部分）、1 社会資本と地域、2 東京一極集中と社会資本であり、3 農村と社会資本、4 都市・農村の共生・連携と社会資本は、立命館大学教授の平岡和久さんである。私が執筆メンバーにあとから加わったので、第2章をどのように構成するか、茨木キャンパスに2度行って調整作業を行った。1つの章を分担執筆するのは調整が難しいが、平岡さんのおかげで何とか構成できた。

はじめにの最後から一現代社会資本を地域からアプローチするうえで、都市と農村の現実に即して、それぞれに特有の問題について明らかにすることが求められる。本章では社会資本と地域について、現代日本の都市と農村の現状から、当面する課題を提起していきたい。そのなかで、地域間格差拡大と人口減少時代の社会資本のあり方、都市と農村の交流・連携についても、いくつかの事例により問題を探ってみたい。

執筆メンバーに加わったあと、東京へ調査に出かけた。都庁での資料収集、港区役所でのヒアリング、開発現場の視察などを駆け足で行った。原稿提出後に編者から厳しいコメントをもらい悪戦苦闘したこと、コロナ禍で何回も校正作業を行ったことも忘れられない。久しぶりに有斐閣さんにお世話になった。多くの人に読んでもらいたい。



(2020年11月16日)